各自治会の責任者が避難状況を本部に連絡。災害を想定して徒歩や自転車などで状況を伝える

練をしました。飯島好江代表は「日ごろの訓練が生かされ、みんな作り方を熟知しています」と日々の訓練の成果を話していました。

訓練後、委員会の責任者が集まり「緊急車両の要請連絡手順を確認する必要がある」「担架の使い方を練習しなければ」「報告書の用紙統一と内容の再確認」など問題点を確認し合いました。

組織化して役割を明確

黒坂地区自主防災委員会は、自分たちの地域は自分たちで守ろうと、昨年9月に黒坂地区連合区内の世帯（17自治会）で結成。情報伝達の強化などそれぞれの役割を明確にし、住民による自主的な防災活動を行い、災害による被害の防止、軽減に取り組んでいます。

5か年の長期活動計画も定め、2年目の今年は、組織全体としての機能と防災組織に必要な資機材の整備が計画目標。今後、災害弱者支援体制の確立などを目指します。

2年目の計画目標
防災資機材を整備

黒坂自主防災委員会は、平成15年度コミュニティ助成事業（自主防災組織育成事業）の助成を受け、防災資機材を整備。訓練同日の6日、地区住民に披露しました。

今回整備したのは、炊飯装置、担架、飲料タンク、発電機、携帯用投光機など13品目。黒坂支所駐車場内に資機材倉庫を設置しました。

福田和也会長は「いざという時に備え、資機材の充実が図れた。使わないことにこしたことはないが、今後も資材とともに組織も強化していきたい」と抱負を述べました。

資機材は宝くじの助成で整備。この事業は、宝くじの普及広報を目的として、コミュニティ活動の助成や文化振興事業などを支援しています。

災害対策の資機材を整備し迅速な防災活動を